

岡野工業(株)代表社員

岡野

OKANO  
Masayuki雅行さんに伺いました聞き手  
安原 達  
編集委員[writer] 澤田 裕  
[photo] 永田 正男

痛くない注射針などでつきつきと不可能を可能にした、世界一の金属加工技術を誇る岡野工業。岡野氏の経営や技術へのお考えをお聞きした。

2009年1月26日(月)  
岡野工業(株)

自分しかできないものを作り、  
自分で値段を決める

——最近は何人をやっているんですか。  
——自分は含めてたったの5人。みなさん不思議に思うようだけど、絶対に大きくしないよ。今だって100人や200人の会社にはすぐになるんだけどね。仕事は余るほどあるんだから。でもね、規模を大きくすればそれだけ人件費がかかって、安い仕事だつて取ってくるようになっちゃう。それが5人だったら、それぐらいの仕事はいつだってある。それに会社を大きくしちゃうと景気が悪くなったときのダメージも大きくて、社員を路頭に迷わせることになる。5人の会社だったら、今すぐにだつて畳むことができるよ。

——携帯電話とヴィッツの電池ケースを見せ  
——最後まであきらめないから  
失敗にはならない

——携帯電話とヴィッツの電池ケースを見せ

——携帯電話とヴィッツの電池ケースを見せ

——携帯電話とヴィッツの電池ケースを見せ

——携帯電話とヴィッツの電池ケースを見せ

が失敗しても俺が責任を取るからやれよ」って言われて、それで一生懸命やるからできたんだ。今はただ「やれ！」って言うだけ。だからやらない。となると結局はうちに発注するしかない。それでうちが儲かるっていう仕組みなんだ。つまりトライ&エラーが大事だってこと。ヴィッツの電池ケースを例にとると、3の手順までうまくいったけど、そこから先がダメになる。そういうとき、試験なら問題があつて答えがあるけど、これにはまだ答えがないんだ。今の技術屋は、みんな大学の先生なんかには教わつてなってるんだよ。そこから脱皮できないからダメ。答えが決まつてる勉強ばかりやってくるから。

もちろん、中途での失敗の量は半端じゃない

よ。でも、絶対最後まであきらめない。たとえば角のめつきがはがれちゃったときは、金型のつくりを考えるんだ。アプローチを変えてみる。金型の設計を変えてみる。角度を変えたりね。あきらめちゃえば失敗になるけど、できるだけあきらめないから最終的に失敗とはならないわけ。頼まれてできなかったというのはいいよ。

### 土木の現場をもっとみんなに見せなきゃダメ

——もうすぐ76歳になられるとのことですが、この年まで現役でいらっしゃる秘訣はなんですか。

岡野——興味をもち続けるってことが大事。

地下鉄工事の現場で、杭を打ってるのを見たときにひらめいたんだ。昔はエアハンマーでやったものを、今は振動で打ってるんだ。それで「振動で加工するプレスができれば」って思いついた。振動を与えると液状化現象を起こして、杭がすんなり入っていくんだよ。それに入るとき振動を与えたものは、抜くときも振動を与えないと抜けないんだ。振動はものすごく使い道があるってこと。それが今、工場に入っている。プレス機としては世界で初めてだよ。

子どもの頃の町工場は窓が開いていたから、金型やプレスをみんな見ることができたんだ。クーラーもエアコンもないから、窓を開けるしかないんだ。子どもだから、見てるものが頭の中にスツと入ってくる。だから後になつて何か困ったときも、「あつそうだ、こうすればいいんだ」って、自然に解決のアイデアを思い浮かべることができたんだ。今の子どもたちはかわいそうだよ。見ることができないもの。工事現場だつてふたをしちゃうんだから。ああいうのは見せなきゃいけないの。そうすりゃあ欲しい人材だつて、募集しなくなつて来るよ。「ああいうのをやってみたい、おもしろい」って。だから土木学会でも、現場をみんなに見せるようにしなよ。そうすりゃあ子どもたちだつて興味をもつて、将来の仕事に選ぶかもしれないよ。

——末永いご活躍をお祈りしております。本日はどうもありがとうございました。



#### 岡野 雅行(おかの・まさゆき)さん プロフィール

1933年東京墨田区生まれ。現在、岡野工業(株)代表社員。1972年に家業の金型工場を父親から継ぎ、社員わずか5人(取材当時)の町工場でリチウムイオン電池のケースや穴の直径が60 $\mu$ mしかない極細の「刺しても痛くない注射針」をはじめ、だれも開発できなかった製品をつくりあげる世界一の職人。